

# 森と暮らしをつなぐ木づかいの輪を広げる



沖縄は琉球王国の時代から、  
森林の恵みである木材を有効活用し  
暮らしに役立ててきました。  
ただ使うだけではなく、その後  
植えて、育てて、収穫して、使う。  
そうした循環利用をすることで  
森林を維持し、  
次世代につなぐことができます。  
この冊子では、  
森林のために働く人々や  
県産木材が使われている場所、  
沖縄の森と木に関する  
豆知識などを紹介しています。  
あなたの日々の暮らしの中にもっと  
沖縄の木が活用されることを願って。

- 15 コラム02 / 国頭村の木育
- 16 沖縄の木 豆知識
- 21 コラム03 / 沖縄、ウッドスタート宣言しました！
- 22 沖縄の木工作家・業者・組合リスト
- 25 コラム04 / 森林環境税と森林環境譲与税とは？



沖縄県公式You Tube

沖縄の森林の  
仕事を知ろう！

## CONTENTS

- 02 数字で見る沖縄の森
- 04 沖縄の森と木のこと
- 06 沖縄の森と木のしごと
- 08 沖縄の木を知る
- 08 沖縄の木の種類
- 09 コラム01 / 令和の首里城復興に県産木材を利用
- 10 木の循環利用
- 11 木を体感する施設
- 12 見つけた！ココに沖縄の木





沖縄の  
森林の割合  
47%

沖縄県の森林面積は106,248haで総面積（2,282,11km<sup>2</sup>）に対する割合は約47%。  
つまり、沖縄県のおよそ半分は森林に覆われているということです。ちなみに、  
全国の平均森林率は66%。沖縄と比べると、全国の方がやや高めです。



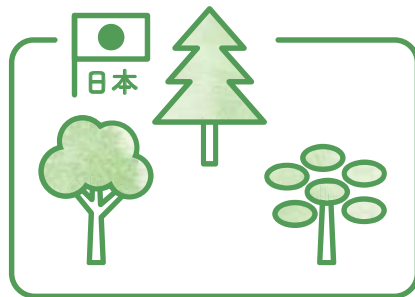
35種

沖縄の造林樹種

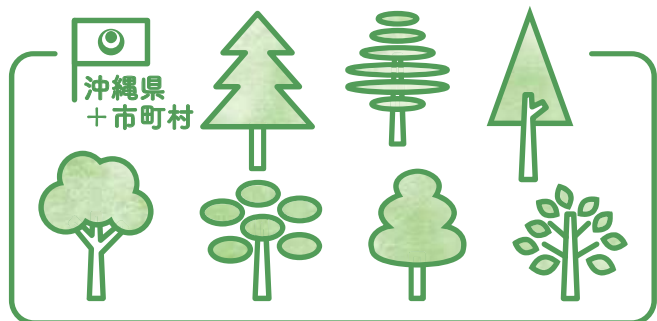
全国の人工林はスギとヒノキで占められているのに対し、沖縄は多くの樹種が植えられているのが特徴。  
目的に合わせてさまざまな森林を育成できます。

## 森林面積の国有林 ／民有林の割合

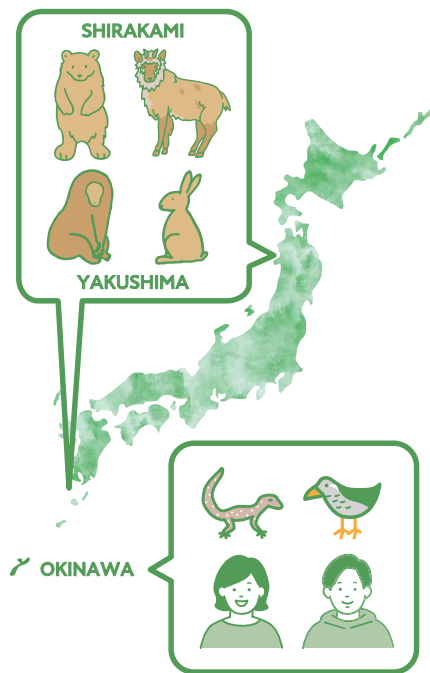
国有林 3 : 7 民有林



国が所有しているのが32,153haで約30%、民有林は74,095haで約70%。  
民有林の内訳は、県が5%（5,682ha）、市町村が38%（40,558ha）、私有林が26%（27,855ha）。所有している森林がもっとも大きいのは市町村なのです。



## 世界自然遺産登録エリアの やんばるの国有地以外の割合



53%

国内には世界自然遺産登録された地域が5つありますが、その中でやんばるは53%が国有地以外の土地。例えば白神山地は0%、屋久島は5%などほとんどが国有地です。これが意味するのは、やんばるは昔から地域住民等が生活の場として利用していた場所が世界自然遺産区域に指定されているということ。自然と人が共存する貴重な場所なのです。

## 全国の 4割が沖縄に

保安林には水源涵養や土砂流出防止、防風など色々な役割がありますが、中でも全国の民有林の潮害防備保安林の4割が沖縄にあります。台風が多い島しょ県ならではの特徴です。

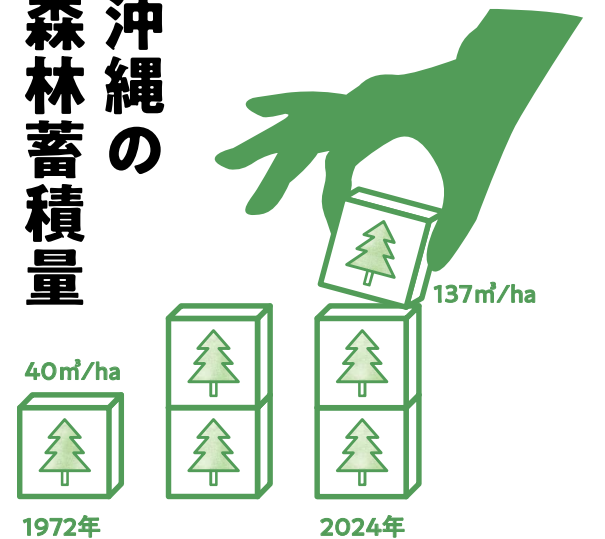


## 森林のCO<sub>2</sub>吸収量 12.9万t

沖縄県環境部の調査によると、2021（令和3）年度の沖縄県におけるCO<sub>2</sub>の吸収量は農地や都市緑化を含めると17.6万トン。そのうち森林だけで見ると12.9万トンと、約7割以上が森林によってCO<sub>2</sub>が吸収されていることが分かりました。



## 沖縄の 森林蓄積量



約3倍

森林資源の豊かさを表す指標の一つに「森林の蓄積量」があります。これは、森林を構成する樹木の幹の体積の量のこと。沖縄では、本土に復帰した1972年に比べて、2024年には約3倍以上に。沖縄の森林は、復帰後最も充実した時期を迎えています。

知るともっと面白くなる  
数字で見る  
沖縄の森  
数字から見えてくる沖縄の森林の姿とは？  
意外？イメージ通り？興味深い現状が見えてきます。





# 沖縄の森と木のこと

世界自然遺産にも登録された、やんばるをはじめとする沖縄の森林にはどんな魅力があるんだろう？  
沖縄らしい森林を守り、活かして、人々の暮らしと良い関係を築くために、持続可能な取り組みをしています。



## 沖縄の森林ヒストリーとその役割

沖縄県は南北約400キロ、東西約1000キロという広大な海域に点在する49の有人島と、多数の無人島で構成されています。黒潮が流れる暖かい海に囲まれ、海洋の影響を強く受ける亜熱帯海洋性気候に属し、高温多湿な地域であることが特徴です。海のイメージが強い沖縄ですが、一方で沖縄の森林は、琉球王国時代から薪や炭などの燃料や、船や建築資材と、暮らしに欠かせない木材を生む重要な役割を果たしてきました。その主な産地となったのが、やんばるである沖縄本島北部と、石垣島から与那国島まで八重山郡島の32の島々で構成される八重山地域です。特に、やんばるから沖縄本島中南部へ、森からの木材を満載し海を疾走する山原船「やんばるせん」の姿は、人々の暮らしの活気を物語る象徴でもありました。その後、度重なる首里城の全焼や人口増加などによる木材不足が発生したことから、森林保護を目的とした杣山（そまやま）制度が制定。森林管理が行われるようになりました。



琉球王国時代から時は変わり、沖縄県が誕生した明治、そして大正、昭和へと移り変わり、しばらくすると戦争が勃発。それによるダメージと、戦後の生活を支えるために木々は伐採され、森林はかつてないほど荒廃してしまいました。その後、戦後の復興が始まると森林の復興にも着手され、植林が行われるように。あれから80年となる現在、県内各地の森林は充実期を迎えています。

## 持続可能なやんばるの森林業

沖縄の中で林業がもつとも盛んなやんばるでは、全国的にも注目される取り組みが行われています。やんばるの森の主な役割は、沖縄の特徴的な多種多様な木材を供給することに加え、本島中南部への水資源の供給地であることが挙げられます。また、やんばるの森は世界遺産にも登録された通り、希少な生き物の生息地域であるとともに、人々の暮らしを昔から支えてきた場でもあります。こうしたことをふまえ、沖縄県は「沖縄21世紀ビジョン」の中で、森林・林業において、自然環境の保全・再生・適正利用、防災体制の強化、亜熱帯性気候や島しよ性を活かした農林水産業の振興と基盤整備などに取り組んでいくこととしています。

特に、国頭村、大宜味村、東村のやんばる三村の森林については、自然環境の保全と環境に配慮した利活用を両立するために「やんばる型森林業」を推

進。2万7161ヘクタールに及ぶやんばるの森全体を「守るべき区域」と「活かすべき区域」に分け、森林を多面的にとらえた施策を行っています。守るべき区域では、生き物たちの生育環境のための取り組みを行い、活かすべき区域で人々の暮らしに役立つ木材を収穫。そして、その後には必ず苗を植え、適切な手入れを行うことで森林を再生し、同時に木材の利用を促進していきます。

やんばるの森を適切に保全していくためには、保護するだけでなく、自然環境の特性に応じて持続可能な利用をしていくことが不可欠です。これはやんばるの地域に課せられた大きな使命。森林の持つさまざまな機能を十分に発揮させ、持続可能な森林経営を推進するためには、地元の人だけでなく、県民や観光客の人々の協力も必要です。やんばるの森に興味を持ってもらい、守り、活用し、循環させる活動にみんなで取り組んでいきましょう。

## 八重山・宮古地区の森林と林業

県内の離島も含めた各地で行われている林業の取り組みにはどんなものがあるのでしょうか。昔から豊富な森林資源のある八重山地域は、森林率は約52.3%と、県内では沖縄本島北部に次いで2番目に広い森林があります。その面積を維持、拡大するために、毎年、イスノキ、リュウキュウコクタン、テリハボクなどの植林が行われています。



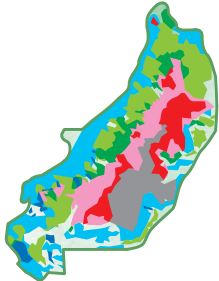
生き物の生息地として環境を守るだけでなく、土壌が流出するのを防いだり、水を蓄える機能を発揮できるよう、もともと育っている樹木の下に、新たに低木の苗を植えて複層林の造成を目指す植林活動も実施しています。また、本島には少ない樹種が多く育っていることも特徴で、その数は70種以上にも上ると言われています。そうした木々を積極的に活用する取り組みが、島内の木工事業者を中心に行われ始めている。

一方、島全体がおおむね平坦で山岳部が少なく、森林面積も少ない宮古地区では、防風林や街路樹が暮らしの中で使われてきました。宮古地域は土壌に保水力がなく、干ばつの被害を受けやすい上、台風による大きな被害も多く受けてきました。そのため、自然災害に強い島づくりの一環として、農地を守るための防風林の造成や、雨水を吸収し水源を保つ機能を発揮させるための植林活動など、森林づくりへの取り組みを開始。観光資源の付加価値としての緑化も行っています。

## PICK UP

## やんばる型森林業

貴重な野生動植物が生息する豊かな森林の利用と保全の両立を図るため、県では「やんばる型森林業の推進」の施策方針を決定。「生物多様性保全」「水土保全」「木材等生産」などの機能に基づき、森林の利用区分（ゾーニング）を決めた上で持続可能な森林業に向けて取り組んでいます。



## 森林の機能に応じて利用区分を設定

〔自然環境保全区域〕

①中核部 ②バッファ部

〔水土保全区域〕

③自然環境重視型 ④自然環境配慮型

〔林業生産区域〕

⑤自然環境重視型 ⑥自然環境配慮型





# 沖縄の森と木のしごと



沖縄の森を健全に保つために日々森へ入り、状態を確認する仕事人。そして収穫した木々を材木へと加工することで、木材利用を促進する手伝いをする人たち。そんな森の仕事人を2組、紹介します。

## WOOD WORK 02

### 企業組合キンモク



企業組合キンモク  
金武町金武 10392-4  
☎098-968-6767

**県産木材の魅力を活かす**

企業組合キンモクでは、収穫された木を森林業者より購入し、建築資材と土木資材に選別した上で、用途に合わせた形や大きさに加工して販売。工場併設の木材販売所には、さまざまな種類の木材が並びます。そのほか、畜産小屋の敷材やキノコの菌床栽培のために木を粉碎し、オガコの製造も行っています。

木材の加工工程でもっとも時間がかかるのは「乾燥」。丸太を用途に応じてカットした後、自然乾燥だけでは3～5年もかかるそうですが、一旦、乾燥機にかける場合は、例えばリュウキュウマツなどであれば2～3ヶ月で仕上がるとのこと。

代表取締役の金城さんは、沖縄に広く分布する広葉樹は構造が複雑なところが魅力で「バラエティに富んだ品質こそが面白い」と話します。今後は沖縄特有の樹種を活かした商材で、新たな市場へ向けた業務拡大も視野に入れているそう。今後の展開が楽しみです。

## WOOD WORK 01

### 国頭村森林組合



国頭村森林組合  
国頭村字与那 1258  
☎0980-41-5421

**森を守り育むこと**

沖縄本島の最北端に位置する国頭村で、約1万6000ヘクタールもの森林を管理しているのが国頭村森林組合です。造林をはじめ、木々を育てるための手入れや適切な収穫、利用促進など、森林の循環利用のために日々森の管理を行っています。

主な作業に人工林の管理がありますが、同組合職員の比嘉進さんによると、沖縄の人工林は、イタジイやイジュ、イスノキなどの広葉樹が多いとのこと。スギやヒノキなどの針葉樹がメインの本土とは見た目からして異なるということです。

1本の木が収穫できるまでにはおよそ40年の月日が必要ですが、森林組合では、収穫できるその日のために、下草刈りや間伐作業など、森林を健全に保つ仕事を日々行っています。また、やんばるの森は木材を生み出すだけでなく、希少な生き物たちの生態系を育む場でもあります。そのどちらを守ることも、森林組合の役目なのです。



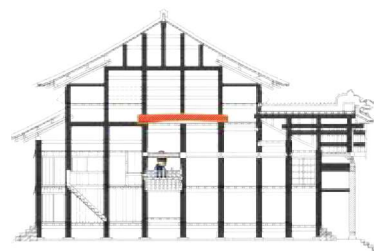
## 令和の首里城復興に県産木材を利用

### 首里城年表

- 1429 年 琉球王国が成立
- 1453 年 王位継承をめぐる争いが起こり、首里城が全焼
- 1660 年 失火により首里城が全焼
- 1672 年 首里城再建
- 1709 年 失火により首里城が全焼
- 1712 年 首里城の再建開始
- 1715 年 首里城正殿再建完了
- 1879 年 琉球王国終焉、沖縄県誕生
- 1945 年 沖縄戦により首里城消失
- 1992 年 首里城公園一部開園
- 2000 年 世界文化遺産に登録
- 2019 年 首里城正殿を含む7棟が焼失
- 2026 年 正殿完成予定



1.平成の首里城正殿。令和の復興では2026年に正殿完成予定。2,3.首里城正殿の小屋丸太梁の材料として国頭村で調達されたオキナワウラジロガシ。4.使用に向けて国頭村から首里に向けての出発式（木曳式）。



オキナワウラジロガシは、2階の王様が座る場所の天井を支える梁に使われます。

これまで幾度となく焼失・再建を繰り返した首里城ですが、令和の復興では、正殿に国頭村で育ったオキナワウラジロガシ、クスノキ、宮古・石垣を含めた県内各地のイヌマキが使われます。沖縄では琉球王国時代から、首里城をはじめ、お寺や船を作るのにたくさんの木材が使われてきました。18世紀になると、三司官である蔡温が木材需要の高まりにより森林資源が枯渇することを懸念し、林野改革を実施。むやみな伐採を禁止しました。そこから植えて、育て、収穫して、使うサイクルができるようになりました。世界遺産にも登録された首里城は沖縄の象徴であり、沖縄最大の木造建築。そこに県産木材を使用するのは、とても意義があることです。

持続可能な木材利用のために

### 未来のために植えて育てる



琉球王国時代の杣山制度（森林管理の制度）により県内各地でオキナワウラジロガシが植栽され、現在も生育管理がされています。また、植栽は継続的に行われ、令和3年4月時点でおよそ2000本以上の樹木が育っていることが確認できています。

今回、首里城に使用しているオキナワウラジロガシの伐採跡地には、後継木となる苗木を植栽。今後様子を見ながら管理がなされます。大切な県産木材を未来も有効活用ができるように、地道な取り組みが行われています。



### リュウキュウマツ 琉球松

マツ科  
常緑高木(10~25m)  
別名:リュウキュウアカマツ  
方言名:マチ、マーチ、マチギ  
分布:トカラ列島~先島諸島  
用途:家具材、内装材、支柱、板材

琉球産唯一のマツ科の樹木で南西諸島の固有種。風や潮、乾燥に強い環境適応性の高さと、美しい樹姿から都市の緑化植物としても利用されています。沖縄全島で広く育っていることから昭和47年10月に沖縄県木に指定。材は帯黄褐色で樹脂を含み、木目は美しく光沢があります。



### センダン 栴檀

センダン科 落葉高木(10-20m)  
別名:アウチ  
方言名:シンダン、シンダンギー  
分布:関東~先島諸島、小笠原(本来の自生は四国・九州以南といわれる)  
用途:家具材、器具材など

沖縄の広葉樹のなかでも成長の早い木の一つです。3月頃に薄紫の花をつけ、夏にはクマゼミが多く集まる木として知られています。軽くて耐久性が強い材です。昔は女の子が生まれると庭にセンダンを植え、嫁入りが決まったら花嫁道具としてセンダンでダンスを作って持たせたそうです。



### イジュ 伊集

ツバキ科  
常緑高木(7-20m)  
方言名:イジュ  
分布:奄美、徳之島、沖縄良部、沖縄諸島、宮古(植林)、石垣、西表、与那国  
用途:建築材、魚毒など

沖縄の固有種で、枝の先に葉や花が集中して付く木です。うりずん(初夏)の頃、樹冠に真っ白い花を咲かせて山を飾ります。秋には、どんぐりのような2cmほどの実をつけます。琉球王国時代には主要な建築材として利用されていました。



### イヌマキ 犬槿

マキ科  
常緑高木(3-20m)  
別名:マキ、クサマキ  
方言名:チャーギ、キヤーギ、キヤンギ  
分布:関東~先島諸島  
用途:建築材、家具材、器具材

雌雄異株で材はシロアリに強いため沖縄では古くから建築材として使用されてきました。首里城や中村家でも使用されています。チャーギの家は高級な家とされ、仏壇もチャーギで作られているものは最も高級なものとされています。春に淡い黄色の花が咲き、夏から秋にかけて実をつけます。



### クスノキ 樟

クスノキ科  
常緑高木(10-25m)  
方言名:クスヌキ、クスヌチ  
分布:関東~南西諸島。本来の自生は九州~屋久島といわれ、他は野生化。先島諸島で見られるのは珍しい  
用途:建築材、器具材など

常緑広葉樹としては日本最大級の大木。葉や木全体から良い香りがします。沖縄では、樟脳の原料採取のため造林されました。葉の形や付き方から騒音を吸収する効果があるとされ、街路樹にも利用されています。成長が早く大きな材となり、建築や造船、家具などに使われます。



### イタジイ

ブナ科  
常緑高木(10-25m)  
別名:スダジイ、オキナワジイ  
方言名:シィジャ、シィギ  
分布:奄美群島~沖縄諸島、石垣、西表、与那国  
用途:建築材、器具材、薪炭材、土木用材、椎茸櫓木

やんばらが「ブロッコリーの森」と形容されるのはイタジイの姿から。幹はノグチゲラやヤンバルテナゴコガネなどのすみかにもなります。薪や炭が生活の燃料だった時代には、その原料としてよく用いられていました。シロアリに強い、付加価値の高い活用が期待されています。



### アカギ 赤木

トウダイグサ科  
常緑高木(5-25m)  
方言名:アカン、アハギ、アカツギ  
分布:沖縄諸島~先島諸島。  
奄美群島や大東、小笠原で野生化  
用途:家具、農機具、工芸、小物類など

成長が早く、赤褐色の太い幹が特徴です。直径が1~1.5mにもなり、県内で最も大きな木の一つとされています。首里金城町の大アカギ群は国の天然記念物に指定されています。材は、赤みのある褐色で、木目は目立ちません。色ムラがありません。色ムラがありません。色ムラがありません。



# 沖縄の木を知る

亜熱帯海洋性気候の沖縄で育つ樹木は個性的。主に材木として使われる木々を紹介します。



# 木を体感する施設



森のふしぎ館

森の役割や仕組みについて学べる展示や県民の森で撮影された動画が見られるシアターがお出迎え。沖縄で育つさまざまな種類の木に触れる体験ができたり、実際に木を加工して楽しむことができる木工室なども備わっています。



木のふれあい館

県産木材で作られた木のたまごのプールや、滑り台に木のお家、クラフトコーナーの積み木など、木の温もりをたっぷり感じながら遊べるスペースがあります。研修室や授乳室など利用者に嬉しい設備も整っています。



## 沖縄県 県民の森

恩納村

恩納村字安富祖 2028  
☎098-967-8092



<https://kenminnomori-obsi.jp/>

森や川沿いを散策できるハイキングコースやキャンプ場、パークゴルフ場、スポーツが楽しめる広場のほか、沖縄の森について学べる「森のふしぎ館」や「木のふれあい館」など、沖縄の森林を満喫できる施設があります。総面積は181ヘクタールという広大さ。子どもから大人まで楽しめます。

沖縄の森について総合的に学べる

## やんばる森のおもちゃ美術館

国頭村

国頭村字辺土名 1094-1  
☎0980-50-1022



国頭村森林公園

<https://www.kunigami-forest-park.org/>



やんばる森のおもちゃ美術館

[https://www.kunigami-forest-park.org/toy\\_museum/](https://www.kunigami-forest-park.org/toy_museum/)

やんばるの森の魅力を遊びながら感じることでできる体感型ミュージアム。県産木材で作られた「たまごプール」やおもちゃが館内の至る所に展示され、どれも手に取ることができる。小さな子どもでも安心して遊べます。2025年末頃にはスペースを拡大・内容を充実させてリニューアルオープン。

木のおもちゃで遊びを満喫

# 木の循環利用



## 循環利用のメリット

CO<sub>2</sub>削減が叫ばれる昨今、樹木を育てることは有効な手段の一つといえるでしょう。特に若い樹木はCO<sub>2</sub>の吸収量が多いので、苗木を植え森を育てることはCO<sub>2</sub>削減に大いに役立ちます。

## 次代へバトンを

大きく育った木は次の世代への贈り物。木材として使用されるまでの間は、水源涵養や災害防止の役目を担うほか、優れた景観や癒し、生き物の生活空間を提供します。



## 植えっぱなしはダメ

木を植えただけではちゃんと育ちません。下草刈りや除伐・間伐などを適切な時期に行っていくことが大切です。

### MEMO

## カーボン・オフセットで排出したCO<sub>2</sub>を埋め合わせ

カーボン・オフセットとは、日常生活や経済活動でどうしても排出されるCO<sub>2</sub>等の温室効果ガスを、その排出量に見合った削減活動で埋め合わせするという考え方。自分が排出した量を把握し、他の活動で創出されたクレジットを購入して埋め合わせを行うこともできます。

## ▶ 循環のスタート地点

循環利用をするために行う最初の作業は植えること。その土地に合った木を選ぶことが大切です。

### MEMO

## 森林があることがSDGsに貢献

国連により定められた持続可能な社会のための17の目標「SDGs」に注目が集まる昨今。森林はその存在自体がSDGsに貢献しているだけでなく、林業や木材を利用することは結果的に森林の整備や保全に還元されるという大きな循環に貢献していると言えます。